

日本不整脈心電図学会

県内初、看護師が評議員に あづみ病院の大月氏



県内で初めて看護師として評議員に選出された大月主任

J A長野厚生連北アルプス医療センターあづみ病院（北安曇郡池田町、富田威院長）看護部の大月幸恵主任がこのほど、「日本不整脈心電学会」の評議員に選出された。同院によると、同会評議員のほとんどは医師で、看護師が選ばれるのは珍しく、県内初という。大月主任は「（評議員選出は）本当に光栄なこと。わたしが活動できるのは周りの医師や病院スタッフの協力があったこと」と感謝を述べた。

（武内玄太）

同会は、医師をはじめ臨床検査技師、臨床工学技士、看護師など1万人を超える会員が在籍し、不整脈疾患の重要性に関する啓発活動の促進や予防活動などをやっている。評議員の要件は、会員歴7年以上で、過去4年間で学術大会および学術

研究会のシンポジウムやパネルディスカッションで座長か演者を務めた会員など、さまざまな条件を満たすことが必要となる。

評議員任期は、2020年8月下旬社員総会（評議員会）終了後、24年学術大会終了日まで。全国の医師が中

心の評議員数334人（県内3人）のうち、看護師は8人（同1人）選出された。

これまで評議員を務めた看護師は少なく、今回から増員されたことについて大月主任は「（デバイス分野に特化した）デバイスナースが期待されているのは」と推測する。また、評議員に選出されたことで「医師らとよりコミュニケーションが取れることで、患者さんや職員にとってもプラスになる。デバイスナースがさらにチー

ム医療に貢献できるように活動していきたい」と抱負を語った。

なお、同院の富田院長は評議員を務めている。